

『山形大学 教職・教育実践研究』編集・投稿要項

【編集要項】

1. 山形大学教職研究総合センター紀要（『山形大学 教職・教育実践研究』）は、教職教育および教育実践に関する論文・報告等を掲載する逐次オンライン刊行物とする。
2. 刊行の頻度は、原則として年1回とする。
3. 本紀要は、「論文」・「資料」および「事業報告」をもって構成する。
4. 「論文」・「資料」の様式は、下記の【投稿要項】による。投稿原稿は未公開のものに限る。
5. 「事業報告」の部には、センターの事業報告を掲載する。
6. 本紀要に投稿することができる者は、下記の通りとする。
 - (1)本学部および教育実践研究科の専任教員および客員教員
 - (2)その他、編集委員会が認めた者
7. 投稿された原稿の採択、掲載順序および体裁などについては、編集委員会において決定する。
8. 投稿された原稿は、査読結果により、編集委員会が執筆者に修正などを求めることができる。

【投稿要項】

1. 投稿原稿は未公開のものであることはもちろんのこと、本紀要の趣旨および研究倫理の趣旨に沿うものであること。
2. 「論文」は研究論文ないしは特定の研究領域の展望などを含み、その内容の独自性が十分であると認められるものであることを原則とする。「資料」は、実践報告・教材開発・尺度作成などを含み、その独自性の点で研究論文とはいいがたいものとする。
3. 投稿原稿の長さは、図・表・写真等すべてを含めた刷り上がり12ページ以内を原則とする。なお、それを超えるものについては、編集委員会において認められなければならない。
4. 本紀要の版型・組み方は、「A4, 10.5ポ, 横1段, 46字, 45行組み」である。詳細は、「執筆の手引き」に定める。
5. 原稿はワープロ原稿（Word）とし、上記の原稿作成要領に基づき、完全原稿とし、プリントアウトしたもの2部を提出する。
6. 審査終了後、査読結果が「このままで掲載してよい」の場合、完全原稿を保存した電子媒体を提出する。一方、査読結果で修正を求められた場合は、修正済みの完全原稿を2部と、その完全原稿を保存した電子媒体を提出するものとする。電子媒体としては、メール添付、CDかUSBのいずれかを使用するものとし、CDかUSBを使用する場合には電子媒体に「執筆者名・表題」を明記して提出する。
7. 原稿の校正はすべて執筆者が行うものとする。なお、校正は誤植や語句の訂正に留め、内容の添削・変更は認められない。
8. 掲載された論文等は電子化し、図書館ホームページおよび機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。
9. 原稿提出締め切りは、毎年11月30日とし、本紀要編集委員会にて受け付ける。

【執筆の手引き】

1. 原稿作成は、文書作成用PCソフトを使用すること。
2. 文書スタイルは、フォントサイズ10.5ポイントとし、文字は横組み、A4用紙を縦に使用する。上マージン35mm、下マージン30mm、左右マージン25mm、字数46、行数45に設定する。
3. 第1ページの書式は以下の通りである。
 - (1)最初の2行を題目（18ポイント）に使用し、ゴシック体とする。副題（12ポイント）は、第3行を使用する。
 - (2)第4行を空けて、第5行に執筆者氏名を、右に寄せて掲載する。執筆者氏名は、フォントサイズ10.5ポイント、明朝体で、各文字間に一字分の空白を入れる。執筆者名の後ろに片括弧の数字を上付1/4角で付す。第6行（1行に収まらない場合は第6～7行）に右に寄せて、前述の上付1/4角で付した片括弧の数字とともに執筆者の所属を示す。
(例) 山形太郎¹⁾
1) 山形大学地域教育文化学部
 - (3)第7行を空けて、第8行から下に要約を掲載する。1行分を本文よりさらに左右4文字分内側に留める。要約の長さは500字以内とする。
 - (4)2行空けて、キーワードを6語以内を目安に掲載する。
 - (5)2行空けて本文を書き出す。
 - (6)句読点は、、、(カンマ)と。(マル)を用いる。
4. 論文の構成は、各学問分野の形式に沿って、問題と目的・方法・結果・考察・結論・要約・引用文献ないしは、はじめに・本論・結論・おわりに・注などの各部分から成り立っていることが望ましい。
5. 記述は簡潔・明瞭にし、現代かなづかい・常用漢字を使用する。
 - ・副詞や接続詞は基本的にひらがな表記で、また、接尾語の○か月なども。
 - ・二桁以上の算用数字は半角表記で。
6. 図・表等の活用は必要最低限とし、無意味な重複は避ける。また、本文に関連した図表をそのページ前後を含むページの上部分などにまとめて掲載する。できるだけ、本文を図表で切断しない。また、図題は図の下に、表題は表上に置くことを基本とする。
7. 見出しは、大見出し（1，2…）・中見出し（(1)，(2)…）・小見出し（①，②…）を基本とする。なお、大見出しはゴシック体を使用し、その大見出しの上の行は空白とする。
8. 注、引用文献・参考文献の記載は、各学問分野の掲載様式に応じる。
9. 論文の英文表題、執筆者のローマ字表記を論文末に記述する。
10. 論文の英文表題、および執筆者のローマ字表記については、編集委員会では校閲を行わないため、執筆者の責任で扱うものとする。

『山形大学 教職・教育実践研究』編集委員会

平成19年 3月2日	採択
平成20年 2月7日	修正
平成21年10月27日	修正
平成22年3月12日	修正
平成22年11月16日	修正
平成25年2月18日	修正
平成26年2月28日	修正
平成28年9月16日	修正
令和2年1月20日	修正
令和3年7月8日	修正
令和5年9月26日	修正